

## 【続報7】世界的な港湾混雑による物流への影響 (ロングビーチ・ロサンゼルス)

ホリデーシーズンに向けて物流量がピークとなる中、引続き世界各地の主要港では港湾の混雑解消に向けて引き続き課題が山積しております。本号では、2021年10月19日号でお伝えした米国ロサンゼルス港およびロングビーチ港の混雑状況について、続報をお伝えします。

### 1. 米国ロサンゼルス港およびロングビーチ港の状況

- サンペドロエリア(ロサンゼルス港およびロングビーチ港)での2021年9月のコンテナ滞留日数は、前月の5.4日から5.94日に悪化し、PMSA(太平洋商船協会)が統計を開始した2016年5月以来最長となりました。コンテナが5日以上港に滞留している割合も、前月の28.4%から32.8%と更に悪化が継続しており、ターミナル内のコンテナ滞留の主要因となっています。
- 両港の2021年9月の輸入コンテナは83万8,289TEUで、前年の87万7,412TEUから3万9,123TEU(4.63%)の減少、輸出は前年の24万2,952TEUから18万6,500TEUと5万6,452TEU(23.24%)の減少でした。輸出については両港ともに減少しています。なお、ロングビーチ港の2021年11月11日の発表によると、ロングビーチ港の同年10月の輸入コンテナは、前年同期から80万6,603TEUから2.1%減となる789,716TEUと、史上2番目の繁忙を記録した10月となりました。
- 各ターミナルともコンテナを運ぶトラックの列も増える傾向にあり、デマラージやディテンションチャージ等の発生は継続しています。
- 両港の沖合の待機船も、11月5日段階で入港待ちとなっている船舶は95隻と、これまでの記録を上回っています。ロサンゼルス港のPort Optimizerによれば、平均待機時間は14.6日と2か月前の水準の2倍に悪化し、東海岸でも20隻余りのコンテナ船がサバナ沖合で入港待ちとなっています。
- 同エリアでの鉄道ランプでのコンテナ滞留の平均日数は前月の8.2日から5.5日と改善傾向が見られています。

#### ロングビーチ、ロサンゼルス港の9月取扱実績

Long Beach				
	2021	2020	Balance	Percentage
Inbound	370,230	405,618	-35,388	-8.72%
Outbound	110,787	112,556	-1,769	-1.57%
Empty	253,964	266,071	-12,107	-4.55%
Empty inbound	13,492	11,335	2,157	19.03%
Total	748,473	795,580	-47,107	-5.92%

Los Angeles				
	2021	2020	Balance	Percentage
Inbound	468,059	471,794	-3,735	-0.79%
Outbound	75,713	130,396	-54,683	-41.94%
Empty	360,091	281,433	78,658	27.95%
Empty inbound	0	0	0	0.00%
Total	903,863	883,623	20,240	2.29%

Both ports total				
	2021	2020	Balance	Percentage
Inbound	838,289	877,412	-39,123	-4.46%
Outbound	186,500	242,952	-56,452	-23.24%
Empty	614,055	547,504	66,551	12.16%
Empty inbound	13,492	11,335	2,157	19.03%
Total	1,652,336	1,679,203	-26,867	-1.60%

ロサンゼルス・ロングビーチ港湾局実績実績統計より

### 2. 滞留コンテナへの追徴金課徴を取り巻く状況

- 一部ターミナルでは土日のゲートオープンや深夜の時間帯を使っての優先的なコンテナ引き取りなどを荷主に提案したものの、トラックのドライバー不足等もあり、思うような成果にはつながりませんでした。平常時のターミナルでのコンテナ滞留期間は4日未満でしたが、現在は全体の約40%が9日以上留め置かれている状況が継続していました。
- この状況を受け、カリフォルニア港湾当局は2021年10月28日、両港で滞留するコンテナへの新しい追徴金ルールを2021年11月1日から導入することとし、徴収された追徴金を港の混雑解消に向けた対策に使用する予定であることを発表しました。
- トラック輸送コンテナは9日以上、鉄道輸送コンテナは6日以上の遅延に対し、海上運送人に月締請求で適用されるというルールです。
- 当初11月15日より徴収予定でしたが、改善の兆しが見られたことから、同日、両港当局より「徴収開始日を11月22日まで延期する」旨発表がありました。今後も港湾当局側で混雑緩和状況を注視していく予定です。

- また、ウェストコースト MTO 協定(WCMTOA)は 11 月 10 日、両港の交通緩和料金(TMf)が 2021 年 12 月 1 日から 2022 年 1 月 31 日まで一時的に調整されることを発表しています。
- この期間中、ピーク時に TMf を課すことにより、旧正月につながる 12 月から 1 月にかけての繁忙期、オフピークに倉庫、配送センター、トラックの使用を拡大するための全体的な取り組みの一環です。空のコンテナや空のシャーシとキャブのみのトラックは TMf から免除されます。
- 追徴金の課徴については、船社による反発や、大手輸入業者の協力を懸念する見方もありましたが、11 月 10 日のホワイトハウスの発表によれば、両港のドックに少なくとも 9 日間以上滞留していたコンテナの数は、1 週間で 20%以上減少しており、混雑解消にむけた有望な兆候だとしています。

上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いたします。



【出展】日刊サン電子版 11/14 号、 ロングビーチ港 <https://polb.com/>

ロサンゼルス港 Port Optimizer <http://volumes.portoptimizer.com>

米国政府 <https://www.whitehouse.gov>



マリントピックスバックナンバー

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。